

診療所調査票

地域医療提供体制に関する実態・意識調査

(回答に際してのお願い) この調査は統計的に処理し、診療所が特定できる状態で公表は致しません。

- ◆実際に診療を行っている医師のうち、貴院を代表できる方（診療科は問いません）からの回答をお願いします。
- ◆特に断りのない場合、本年10月1日現在の状況についてお答え下さい。
- ◆該当する番号を○で囲む、数字を記入する等、各問の案内に沿ってご記入下さい。
その他を選択した場合は内容をご記入下さい。

問 1. 貴診療所の基本情報について、伺います。

1-1 診療所名

1-2 所在地について、当てはまる市町村の番号を○で囲んで下さい。

下越圏域	1 新発田市	2 村上市	3 関川村	4 粟島浦村
	5 胎内市	6 聖籠町		
新潟圏域	7 新潟市北区	8 新潟市東区	9 新潟市中央区	10 新潟市江南区
	11 新潟市秋葉区	12 新潟市南区	13 新潟市西区	14 新潟市西蒲区
	15 五泉市	16 阿賀野市	17 阿賀町	
県央圏域	18 三条市	19 燕市	20 弥彦村	21 加茂市
	22 田上町			
中越圏域	23 長岡市	24 出雲崎町	25 見附市	26 柏崎市
	27 刈羽村			
魚沼圏域	28 小千谷市	29 十日町市	30 魚沼市	31 南魚沼市
	32 湯沢町	33 津南町		
上越圏域	34 上越市	35 糸魚川市	36 妙高市	
佐渡圏域	37 佐渡市			

1-3 主な診療科目について、当てはまるものを○で囲んで下さい。（複数選択可）

1 内科	2 外科	3 小児科	4 産婦人科	5 耳鼻咽喉科	6 皮膚科
7 泌尿器科	8 整形外科	9 眼科	10 脳神経外科	11 神経内科	12 心療内科
13 精神科	14 麻酔科	15 放射線科	16 形成外科	17 アレルギー科	
18 リハビリテーション科	19 その他（				）

1-4 在宅療養支援診療所の届出をしていますか。

1 届出をしている	2 届出をしていない
-----------	------------

問 2. 現在、訪問診療や往診を行っていますか。当てはまるものを一つ選択して下さい。

訪問診療とは、主治医が計画を立て、患者の自宅等※を定期的に訪問し診察をすることを指し、往診とは、その都度、患者に呼ばれて訪問し診察を行うことを指すものとする。
※自宅等；サービス付高齢者向け住宅・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護など訪問診療料の算定が可能な施設を含む。（配置医としての特別養護老人ホームでの診察は含まない）

1 訪問診療と往診の 両方を行っている	2 訪問診療のみ行って いる	3 往診のみ行っている	4 現在は行っていない
------------------------	-------------------	-------------	-------------

問 3. 今後（5年後）、訪問診療または往診を行っていると思いますか。当てはまるものを一つ選択して下さい。

1 訪問診療と往診の 両方を行っていると思う	2 訪問診療のみ行って いると思う	3 往診のみ行っていると 思う	4 行っていないと思う
---------------------------	----------------------	--------------------	-------------

問4. 今後新たに訪問診療等を行う、または提供件数を増やすには何が必要と思いますか。
 必要性が高いと思われるものを3つまで選択して下さい。

- | | | |
|----------------------------|------------------|--------------------|
| 1 自院の医師増員 | 2 自院の医師以外のスタッフ増員 | 3 在宅医療を行う他の診療所との連携 |
| 4 在宅医療を行う歯科診療所/歯科医療連携室との連携 | | 5 薬局との連携 |
| 6 訪問看護ステーションとの連携 | 7 病院との連携 | 8 ケアマネジャーとの連携 |
| 9 患者家族への周知、需要とニーズ発掘 | | |
| 10 診療報酬の引上げ、加算要件緩和等 | | |
| 11 その他 (| |) |

問5～18の質問は、訪問診療や往診を行っている診療所のみお答え下さい。
 それ以外の診療所は、4ページの問19から回答をお願いします。

問5. 訪問診療や往診を担当している医師の人数、年代をご記入下さい。

担当医の人数 人

年齢内訳

①39歳以下	<input type="text"/> 人	②40歳代	<input type="text"/> 人	③50歳代	<input type="text"/> 人
④60歳代	<input type="text"/> 人	⑤70歳代	<input type="text"/> 人	⑥80歳以上	<input type="text"/> 人

問6. 訪問診療や往診で対応可能な疾患をお選びください（複数選択可）。

- | | | | |
|------------------|----------|-------|---------|
| 1 循環器/呼吸器/消化器系疾患 | 2 認知症 | 3 糖尿病 | 4 脳血管疾患 |
| 5 整形外科疾患 | 6 精神疾患 | 7 がん | 8 神経難病等 |
| 9 小児 | 10 その他 (| |) |

問7. 訪問診療や往診を行っている患者の実人数、訪問延べ件数をご記入下さい。

ひと月あたり平均人数、件数（2019.4.1～2020.3.31の1年間における）

患者宅	実人数	約 <input type="text"/> 人	延べ件数	約 <input type="text"/> 件
患者宅以外※	実人数	約 <input type="text"/> 人	延べ件数	約 <input type="text"/> 件

※患者宅以外；サービス付高齢者向け住宅・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護など
 訪問診療料の算定が可能な施設（配置医としての特別養護老人ホームでの診察は含まない）。

問8. 今後、訪問診療や往診の患者をどのくらい増やすことが可能ですか。

- 1 ひと月あたり約 件 2 増やすことは困難

問9. これまでに病院が行う退院前カンファレンス、ケアマネジャーが行うサービス担当者会議への出席要請がありましたか。

1 要請があった	2 要請はなかった
<p>これまでの出席頻度を一つ選択して下さい。</p> <p>①大半は出席している ②半数程度は出席している ③ほとんどしていない</p>	<p>要請があれば出席したいと思いますか。</p> <p>①条件が合えば出席したい ②出席は困難</p>
<p>調整によって出席が可能となる条件がありますか。（複数選択可）</p> <p>日程 ・ 時間 ・ 検討内容 ・ その他 (</p> <p>)</p>	

問10. 退院前カンファレンスやサービス担当者会議の充実のために何が必要だと思いますか。3つまで選択して下さい。

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 参加職種の多様化（医師、歯科医師等） | 2 患者及び家族の参加 |
| 3 退院日まで余裕を持った開催時期の配慮 | 4 情報の事前準備 |
| 5 参加者のコミュニケーション力の向上 | 6 進行役のファシリテート力の向上 |
| 7 病院関係者が在宅生活や介護サービスの理解を深める | 8 在宅サービス関係者が病院医療に関する理解を深める |
| 9 急な招集への柔軟な対応 | 10 参加しやすい仕組み整備（オンラインミーティングなど） |
| 11 その他（ | ） |

問11. 退院する患者が円滑に在宅医療に移行できていると思いますか。

- | | | | |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|
| 1 大半の事例でできていると思う | 2 半数程度はできていると思う | 3 あまりできていないと思う | 4 全くできていないと思う |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|

問12. 訪問診療・往診を受けている患者やその対応にあたる訪問看護等の専門職に対し、常時連絡がとれる体制をとっていますか。（診療報酬上の加算算定有無は問いません。）

- | | | | |
|---|-------------------|------------------|-----------|
| 1 基本的に常時対応している（訪問・電話等） | 2 診療時間内であれば対応している | 3 条件による | 4 対応していない |
| 時間外でファーストコール対応している職員は誰ですか
医師・自院看護師・事務職
その他（ | | 対応の条件があれば記入して下さい | |

問13. 訪問診療や往診を行っている患者に対し、急変時の対応方法をケアチーム間で共有できていますか。

- | | | | |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|
| 1 大半の事例でできていると思う | 2 半数程度はできていると思う | 3 あまりできていないと思う | 4 全くできていないと思う |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|

問14. 訪問診療や往診を行っている患者の急変時に入院が必要な場合、スムーズに入院できていると思いますか。

- | | | | |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|
| 1 大半の事例でできていると思う | 2 半数程度はできていると思う | 3 あまりできていないと思う | 4 全くできていないと思う |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|

問15. 問14で入院が必要な場合の初動において、頻度の高い手段の一つを選択して下さい。

- 1 地域の仕組み、あるいは複数の病院で在宅医療に特化した受入体制があり利用している
- | | | | | | |
|------|--|------------|---|--|---|
| 仕組名称 | | ひと月あたり利用件数 | 約 | | 件 |
|------|--|------------|---|--|---|
- 2 自ら病院へ直接電話し、入院先を探す 3 救急車を要請する
- 4 事前に病院主治医と取り決めをしている 5 その他（

問16. 2019.4.1～2020.3.31の1年間に、自宅等※1で看取り※2を行った概ねの人数をご記入下さい。

※1 自宅等とは、患者宅のほか、サービス付高齢者向け住宅・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護など訪問診療料の算定が可能な施設を含む。（配置医としての特別養護老人ホームは除く。）

※2 ここでいう看取りとは、本人家族・関係者間で事前に終末期対応について相談し対応準備をしていた場合のことを指し、急死等での検死対応例は対象としない。

約 人

問17. 2019.4.1～2020.3.31の1年間に、自宅等で看取りを行った場所の割合をご記入下さい。

患者の自宅	約		%	サービス付高齢者向け住宅	約		%
認知症対応型共同生活介護	約		%	小規模多機能型居宅介護	約		%
その他 1（			%	その他 2（			%

問18. 自宅等での看取り患者の受入れについて、今後の意向を一つ選択して下さい。

1 看取り患者の受入を増やすことは可能

2 現状維持は可能

3 今後は件数を減らしたと思う

4 看取り対応は行っていない

問19. あなたの地域のICT連携システム※を利用していますか。

※ICT連携システム；在宅医療には、診療所・訪問看護・訪問介護・後方支援病院等の在宅医療を提供する多職種の連携が必要であることから、コンピュータ等の情報伝達技術を活用して情報共有等を行うために構築されたシステムのこと。

1 利用している

2 地域にシステムはあるが利用していない

3 地域にシステムがない

4 ICT連携システムについて知らない

●今後の意向は（ 継続したい ・ やめたい ）
●利用システムの名称()

●今後の意向は
(利用したい ・ 利用しない ・ どちらとも言えない)

問20. 在宅医療と介護の連携において、ICT連携システムは有効だと思いますか。

1 とても有効

2 有効

3 あまり有効でない

4 有効でない

5 わからない

問21. ICT連携システム以外に、地域で連携に活用しているツール（例 新潟市;むすびあい手帳等）がありますか。

1 ある →

名称

2 ない

問22. 地域のICT連携システムのより効果的な活用のために、必要と思われることがあればご記入下さい。

問23. 地域の在宅医療に関する課題は何とご思いますか。当てはまるものを3つまで選択して下さい。

- 1 在宅医療に関わる医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャー、介護職等専門職の人員不足
- 2 在宅医療に関わる診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、介護事業所等の基盤整備
- 3 地域の目指す姿、目標、課題等の協議の不足
- 4 療養手帳やICTを活用した事業者間の情報共有
- 5 在宅医療・介護連携に関する相談支援体制の整備
- 6 病院関係者の意識や知識・技術向上
- 7 診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護等在宅医療提供者の意識や知識・技術向上
- 8 介護職の意識や知識・技術向上
- 9 地域住民への在宅医療に関する普及啓発
- 10 医療圏を意識した市町村間の広域連携
- 11 その他 ()

問24. 在宅医療全般に関して、ご意見等がございましたらご記入下さい。

診療所調査票の質問は以上です。ありがとうございました。

(回答に際してのお願い) この調査は統計的に処理し、診療所が特定できる状態で公表は致しません。

- ◆実際に診療を行っている歯科医師のうち、貴院を代表できる方からの回答をお願いします。
- ◆特に断りのない場合、本年10月1日現在の状況についてお答え下さい。
- ◆該当する番号を○で囲む、数字を記入する等、各問の案内に沿ってご記入下さい。
その他を選択した場合は内容をご記入下さい。

問1. 貴診療所の基本情報について、伺います。

1-1 診療所名

1-2 所在地について、当てはまる市町村の番号を○で囲んで下さい。

下越圏域	1 新発田市	2 村上市	3 関川村	4 粟島浦村
	5 胎内市	6 聖籠町		
新潟圏域	7 新潟市北区	8 新潟市東区	9 新潟市中央区	10 新潟市江南区
	11 新潟市秋葉区	12 新潟市南区	13 新潟市西区	14 新潟市西蒲区
	15 五泉市	16 阿賀野市	17 阿賀町	
県央圏域	18 三条市	19 燕市	20 弥彦村	21 加茂市
	22 田上町			
中越圏域	23 長岡市	24 出雲崎町	25 見附市	26 柏崎市
	27 刈羽村			
魚沼圏域	28 小千谷市	29 十日町市	30 魚沼市	31 南魚沼市
	32 湯沢町	33 津南町		
上越圏域	34 上越市	35 糸魚川市	36 妙高市	
佐渡圏域	37 佐渡市			

問2. 現在、歯科訪問診療や往診を行っていますか。当てはまるものを一つ選択して下さい。

歯科訪問診療とは、主治医が計画を立て、患者の自宅等※を定期的に訪問し診察をすることを指し、往診とは、その都度、患者に呼ばれて訪問し診察を行うことを指すものとする。
※自宅等；サービス付高齢者向け住宅・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護など訪問診療料の算定が可能な施設を含む（配置医としての特別養護老人ホームでの診察は含まない）。

1 歯科訪問診療と往診 の両方を行っている	2 歯科訪問診療のみ 行っている	3 往診のみ行っている	4 現在は行っていない
--------------------------	---------------------	-------------	-------------

問3. 今後（5年後）、歯科訪問診療または往診を行っていると思いますか。当てはまるものを一つ選択して下さい。

1 歯科訪問診療と往診 の両方を行っていると思う	2 歯科訪問診療のみ 行っていると思う	3 往診のみ行っていると 思う	4 行っていないと思う
-----------------------------	------------------------	--------------------	-------------

問 4. 今後新たに歯科訪問診療等を行う、または提供件数を増やすには何が必要と思いますか。
必要性が高いと思われるものを3つまで選択して下さい。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 自院の歯科医師増員 | 2 自院の歯科医師以外のスタッフ増員 |
| 3 他の歯科診療所との連携 | 4 在宅歯科医療連携室との連携 |
| 5 在宅医療を行う医科診療所との連携 | 6 訪問看護ステーションとの連携 |
| 7 病院との連携 | 8 ケアマネジャーとの連携 |
| 9 患者家族への周知、需要とニーズ発掘 | 10 診療報酬の引上げ、加算要件緩和等 |
| 11 その他 () | |

問 5～13の質問は、歯科訪問診療や往診を行っている診療所のみお答え下さい。
それ以外の診療所は、4ページ問14から回答をお願いします。

問 5. 歯科訪問診療や往診を担当している医師の人数、年代をご記入下さい。

担当医の人数 人

年齢内訳 ①39歳以下 人 ②40歳代 人 ③50歳代 人
 ④60歳代 人 ⑤70歳代 人 ⑥80歳以上 人

問 6. 歯科訪問診療や往診を行っている患者の実人数、訪問延べ回数をご記入下さい。

ひと月あたり平均人数、件数（2019.4.1～2020.3.31の1年間における）

患者宅	実人数	約 <input type="text"/> 人	延べ件数	約 <input type="text"/> 件
患者宅以外※	実人数	約 <input type="text"/> 人	延べ件数	約 <input type="text"/> 件

※患者宅以外；サービス付高齢者向け住宅・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護など
訪問診療料の算定が可能な施設（配置医としての特別養護老人ホームでの診察は含まない）

問 7. 今後、歯科訪問診療や往診の患者をどのくらい増やすことが可能ですか。

1 ひと月あたり約 件 2 増やすことは困難

問 8. これまでに病院が行う退院前カンファレンス、ケアマネジャーが行うサービス担当者会議への出席要請がありましたか。

1 要請があった

2 要請はなかった

これまでの出席頻度を一つ選択して下さい。

①大半は出席している ②半数程度は出席している ③ほとんどしていない

要請があれば出席したいと思いますか。

①条件が合えば出席したい ②出席は困難

調整によって出席が可能となる条件がありますか。（複数選択可）

日程・時間・検討内容・その他 ()

問9. 退院前カンファレンスやサービス担当者会議の充実のために何が重要だと思いますか。3つまで選択して下さい。

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 参加職種の多様化（医師、歯科医師等） | 2 患者及び家族の参加 |
| 3 退院日まで余裕を持った開催時期の配慮 | 4 情報の事前準備 |
| 5 参加者のコミュニケーション力の向上 | 6 進行役のファシリテート力の向上 |
| 7 病院関係者が在宅生活や介護サービスの理解を深める | 8 在宅サービス関係者が病院医療に関する理解を深める |
| 9 急な招集への柔軟な対応 | 10 参加しやすい仕組み整備（オンラインミーティングなど） |
| 11 その他（ | ） |

問10. 退院する患者が円滑に在宅医療に移行できていると思いますか。

- | | | | |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|
| 1 大半の事例でできていると思う | 2 半数程度はできていると思う | 3 あまりできていないと思う | 4 全くできていないと思う |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|

問11. 歯科訪問診療・往診を受けている患者やその対応にあたる訪問看護等の専門職に対し、常時連絡がとれる体制をとっていますか。（診療報酬上の加算算定有無は問いません。）

- | | | | |
|------------------------|-------------------|---------|-----------|
| 1 基本的に常時対応している（訪問・電話等） | 2 診療時間内であれば対応している | 3 条件による | 4 対応していない |
|------------------------|-------------------|---------|-----------|

時間外でファーストコール対応している職員は誰ですか
歯科医師・歯科衛生士・事務
その他（ ）

対応の条件があれば記入して下さい

問12. 歯科訪問診療や往診を行っている患者に対し、急変時の対応方法をケアチーム間で共有できていますか。

- | | | | |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|
| 1 大半の事例でできていると思う | 2 半数程度はできていると思う | 3 あまりできていないと思う | 4 全くできていないと思う |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|

問13. 在宅医療を受けている患者の急変時に入院が必要な場合、スムーズに入院できていると思いますか。

- | | | | |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|
| 1 大半の事例でできていると思う | 2 半数程度はできていると思う | 3 あまりできていないと思う | 4 全くできていないと思う |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|

問14. あなたの地域のICT連携システム※を利用していますか。

※ICT連携システム；在宅医療には、診療所・訪問看護・訪問介護・後方支援病院等の在宅医療を提供する多職種の連携が必要であることから、コンピュータ等の情報伝達技術を活用して情報共有等を行うために構築されたシステムのこと。

1 利用している

2 地域にシステムはある
が利用していない

3 地域にシステムがない

4 ICT連携システムにつ
いて知らない

●今後の意向は（ 継続したい ・ やめたい ）

●利用システムの名称()

●今後の意向は

(利用したい ・ 利用しない ・ どちらとも言えない)

問15. 在宅医療・介護連携において、ICT連携システムは有効だと思いますか。

1 とても有効

2 有効

3 あまり有効で
ない

4 有効でない

5 わからない

問16. ICT連携システム以外に、地域で連携等に活用しているツール（例、新潟市：むすびあい手帳等）がありますか。

1 ある →

名称

2 ない

問17. 地域のICT連携システムのより効果的な活用のために、必要と思われることがあればご記入下さい。

問18. 地域の在宅医療に関する課題は何とご思いますか。当てはまるものを3つまで選択して下さい。

- 1 在宅医療に関わる医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャー、介護職等専門職の人員不足
- 2 在宅医療に関わる診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、介護事業所等の基盤整備
- 3 地域の目指す姿、目標、課題等の協議の不足
- 4 療養手帳やICTを活用した事業者間の情報共有
- 5 在宅医療・介護連携に関する相談支援体制の整備
- 6 病院関係者の意識や知識・技術向上
- 7 診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護等在宅医療提供者の意識や知識・技術向上
- 8 介護職の意識や知識・技術向上
- 9 地域住民への在宅医療に関する普及啓発
- 10 医療圏を意識した市町村間の広域連携
- 11 その他 ()

問19. 在宅医療全般に関して、ご意見等がございましたらお書き下さい。

歯科診療所調査票の質問は以上です。ありがとうございました。

(回答に際してのお願い) この調査は統計的に処理し、病院名が特定できる状態で公表は致しません。

- ◆ 地域連携部門の方からの回答をお願いします。
- ◆ 特に断りのない場合、本年10月1日現在の状況についてお答え下さい。
- ◆ 該当する番号を○で囲む、数字を記入する等、各問の案内に沿ってご記入下さい。
その他を選択した場合は内容をご記入下さい。

問 1. 貴院の基本情報について、伺います。

1-1 病院名 _____ 記入者職種 (医師・看護師・ソーシャルワーカー・事務職)

1-2 所在地について、当てはまる市町村の番号を○で囲んで下さい。

下越圏域	1 新発田市	2 村上市	3 関川村	4 粟島浦村
	5 胎内市	6 聖籠町		
新潟圏域	7 新潟市北区	8 新潟市東区	9 新潟市中央区	10 新潟市江南区
	11 新潟市秋葉区	12 新潟市南区	13 新潟市西区	14 新潟市西蒲区
	15 五泉市	16 阿賀野市	17 阿賀町	
県央圏域	18 三条市	19 燕市	20 弥彦村	21 加茂市
	22 田上町			
中越圏域	23 長岡市	24 出雲崎町	25 見附市	26 柏崎市
	27 刈羽村			
魚沼圏域	28 小千谷市	29 十日町市	30 魚沼市	31 南魚沼市
	32 湯沢町	33 津南町		
上越圏域	34 上越市	35 糸魚川市	36 妙高市	
佐渡圏域	37 佐渡市			

1-3 標榜診療科目について、当てはまるものを○で囲んで下さい。(複数選択可)

1 内科	2 外科	3 小児科	4 産婦人科	5 耳鼻咽喉科	6 皮膚科
7 泌尿器科	8 整形外科	9 眼科	10 脳神経外科	11 神経内科	12 心療内科
13 精神科	14 麻酔科	15 放射線科	16 形成外科	17 アレルギー科	
18 リハビリテーション科	19 その他 (_____)				

1-4 在宅療養支援病院の届出をしていますか。

1 届出をしている	2 届出をしていない
-----------	------------

1-5 入退院支援を専門に行う部署の設置はありますか。

1 設置あり _____ 2 現在設置はないが、今後設置予定 _____ 3 設置なし _____

入退院支援を行っている職員は誰ですか；ソーシャルワーカー・看護師・その他 (_____)

問 2. 現在、訪問診療や往診を行っていますか。当てはまるものを一つ選択して下さい。

訪問診療とは、主治医が計画を立て、患者の自宅等※を定期的に訪問し診察をすることを指し、往診とは、その都度、患者に呼ばれて訪問し診察を行うことを指すものとする。

※自宅等；サービス付高齢者向け住宅・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護など訪問診療料の算定が可能な施設を含む。(配置医としての特別養護老人ホームでの診察は含まない)

1 訪問診療と往診の両方を行っている	2 訪問診療のみ行っている	3 往診のみ行っている	4 行っていない
--------------------	---------------	-------------	----------

問3. 今後（5年後）に訪問診療や往診を行っていると思いますか。当てはまるものを一つ選択して下さい。

- | | | | |
|------------------------|-------------------|-------------|----------|
| 1 訪問診療と往診の
両方を行っている | 2 訪問診療のみ行って
いる | 3 往診のみ行っている | 4 行っていない |
|------------------------|-------------------|-------------|----------|

問4. 今後新たに訪問診療等を行う、または提供件数を増やすには何が必要と思いますか。
必要性が高いと思われるものを3つまで選択して下さい。

- | | | |
|----------------------------|---------------------|------------------|
| 1 自院の担当医師増員 | 2 自院の医師以外のスタッフ増員 | 3 在宅医療を行う診療所との連携 |
| 4 在宅医療を行う歯科診療所/歯科医療連携室との連携 | | 5 院外薬局との連携 |
| 6 訪問看護ステーションとの連携 | 7 他の病院との連携 | 8 ケアマネジャーとの連携 |
| 9 患者家族への周知、需要とニーズ発掘 | 10 診療報酬の引上げ、加算要件緩和等 | |
| 11 その他 () | | |

問5～8の質問は、訪問診療や往診を行っている病院のみお答え下さい。
それ以外の病院は、問9から回答をお願いします。

問5. 訪問診療や往診を担当している医師について、伺います。

- 担当医の人数 人
- 年齢内訳
- | | | | | | |
|--------|------------------------|-------|------------------------|--------|------------------------|
| ①39歳以下 | <input type="text"/> 人 | ②40歳代 | <input type="text"/> 人 | ③50歳代 | <input type="text"/> 人 |
| ④60歳代 | <input type="text"/> 人 | ⑤70歳代 | <input type="text"/> 人 | ⑥80歳以上 | <input type="text"/> 人 |

問6. 訪問診療や往診で対応可能な疾患をお選び下さい（複数選択可）。

- | | | | |
|------------------|------------|-------|---------|
| 1 循環器/呼吸器/消化器系疾患 | 2 認知症 | 3 糖尿病 | 4 脳血管疾患 |
| 5 整形外科疾患 | 6 精神疾患 | 7 がん | 8 神経難病等 |
| 9 小児 | 10 その他 () | | |

問7. 訪問診療や往診を行っている患者の実人数、訪問延べ件数を数字でご記入下さい。

ひと月あたり平均人数、件数（2019.4.1～2020.3.31の1年間における）

患者宅	実人数	約 <input type="text"/> 人	延べ件数	約 <input type="text"/> 件
患者宅以外※	実人数	約 <input type="text"/> 人	延べ件数	約 <input type="text"/> 件

※患者宅以外；サービス付高齢者向け住宅・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護など
訪問診療料の算定が可能な施設（配置医としての特別養護老人ホームでの診察は含まない）

問8. 今後、訪問診療や往診の患者をどのくらい増やすことが可能ですか。

- | | |
|----------------------------------|------------|
| 1 ひと月あたり約 <input type="text"/> 件 | 2 増やすことは困難 |
|----------------------------------|------------|

問9. 退院困難な患者の抽出を行っていますか。（診療報酬上の加算算定有無は問いません。）

- | | | |
|------------|----------|----------|
| 1 全入院患者に実施 | 2 必要時に実施 | 3 行っていない |
|------------|----------|----------|

問10. 入院患者について担当ケアマネジャーや地域包括支援センター等とのやりとりの実際について、伺います。

10-1 入院中に主にやりとり（電話等）する貴院の職員は誰ですか。

- | | |
|----------------|------------------------------|
| 1 地域連携部門の職員 | 2 病棟配置の退院支援担当者（入退院支援加算 I 対応） |
| 3 上記の2以外の病棟看護師 | 4 決まっていない |

10-2 退院後の生活を検討するために、必要な情報を得ることができていますか。

- 1 大半の事例でできていると思う
2 半数程度はできていると思う
3 あまりできていないと思う
4 全くできていないと思う

10-3 退院前カンファレンスは、必要時に開催できていますか。

- 1 大半の事例でできていると思う
2 半数程度はできていると思う
3 あまりできていないと思う
4 全くできていないと思う

1年間（2019.4.1～2020.3.31）における、ひと月あたりの平均開催件数は 約 件

10-4 上記10-2、10-3において、できない理由は何だと思えますか。

問11. 円滑な在宅医療への移行のために望ましい入退院支援の開始時期はどのくらいと思えますか。

- 1 入院前
2 入院後7日以内
3 入院後14日以内
4 退院7日前
5 退院2～3日前
6 その他（ ）
7 わからない

問12. 退院前カンファレンスやサービス担当者会議の充実のために何が必要だと思えますか。3つまで選択して下さい。

- 1 参加職種の多様化（医師、歯科医師等）
2 患者及び家族の参加
3 退院日まで余裕を持った開催時期の配慮
4 情報の事前準備
5 参加者のコミュニケーション力の向上
6 進行役のファシリテート力の向上
7 病院関係者が在宅生活や介護サービスの理解を深める
8 在宅サービス関係者が病院医療に関する理解を深める
9 急な招集への柔軟な対応
10 参加しやすい仕組み整備（オンラインミーティングなど）
11 その他（ ）

問13. 退院する患者が円滑に在宅医療に移行できていると思えますか。

- 1 大半の事例でできていると思う
2 半数程度はできていると思う
3 あまりできていないと思う
4 全くできていないと思う

問14. 訪問診療や往診を受けている患者やその対応にあたる訪問看護等の専門職に対し、常時連絡がとれる体制をとっていますか。（診療報酬上の加算算定有無は問いません。）

- 1 基本的に常時対応している（訪問・電話等）
2 診療時間内であれば対応している
3 条件による
4 対応していない

時間外でファーストコール対応している職員は誰ですか
医師・看護師・事務職
その他（ ）

対応の条件があれば記入して下さい

問15. 訪問診療や往診を受けている患者の急変時に、スムーズに入院の受け入れができていますか。

- 1 大半の事例でできていると思う
2 半数程度はできていると思う
3 あまりできていないと思う
4 全くできていないと思う

問16. 在宅医療の受け入れに特化した体制（後方支援体制等）がありますか。

- 1 体制がある 名称 ひと月あたり受入件数 約 件
2 特にない

問17. あなたの地域のICT連携システム※を利用していますか。

※ICT連携システム;在宅医療には、診療所・訪問看護・訪問介護・後方支援病院等の在宅医療を提供する多職種の連携が必要であることから、コンピュータ等の情報伝達技術を活用して情報共有等を行うために構築されたシステムのこと。

1 利用している

2 地域にシステムはある
が利用していない

3 地域にシステムがない

4 ICT連携システムにつ
いて知らない

●今後の意向は（ 継続したい ・ やめたい ）
●利用システムの名称()

●今後の意向は
(利用したい ・ 利用しない ・ どちらとも言えない)

問18. 在宅医療・介護連携において、ICT連携システムは有効だと思いますか。

1 とても有効

2 有効

3 あまり有効で
ない

4 有効でない

5 わからない

問19. ICT連携システム以外に、地域で連携等に活用しているツール（例、新潟市：むすびあい手帳等）がありますか。

1 ある →

名称

2 ない

問20. 地域のICT連携システムのより効果的な活用のために、必要と思われることがあればご記入下さい。

問21. 地域の在宅医療に関する課題は何とご思いますか。当てはまるものを3つまで選択して下さい。

- 1 在宅医療に関わる医師、歯科医師、薬局、訪問看護師、ケアマネジャー、介護職等専門職の人員不足
- 2 在宅医療に関わる診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、介護事業所等の基盤整備
- 3 地域の目指す姿、目標、課題等の協議の不足
- 4 療養手帳やICTを活用した事業者間の情報共有
- 5 在宅医療・介護連携に関する相談支援体制の整備
- 6 病院関係者の意識や知識・技術向上
- 7 診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護等在宅医療提供者の意識や知識・技術向上
- 8 介護職の意識や知識・技術向上
- 9 地域住民への在宅医療に関する普及啓発
- 10 医療圏を意識した市町村間の広域連携
- 11 その他 ()

問22. 在宅医療全般に関して、ご意見等がございましたらご記入下さい。

病院調査票の質問は以上です。ありがとうございました。

訪問看護ステーション調査票

地域医療提供体制に関する実態・意識調査

(回答に際してのお願い) この調査は統計的に処理し、事業所が特定できる状態で公表は致しません。

- ◆管理者の方からの回答をお願いします。
- ◆特に断りのない場合、本年10月1日現在の状況についてお答え下さい。
- ◆該当する番号を○で囲む、数字を記入する等、各問の案内に沿ってご記入下さい。
 その他を選択した場合は内容をご記入下さい。

問1. 貴事業所の基本情報について、伺います。

1-1 事業所名

1-2 所在地について、当てはまる市町村の番号を○で囲んで下さい。

下越圏域	1 新発田市 5 胎内市	2 村上市 6 聖籠町	3 関川村	4 粟島浦村
新潟圏域	7 新潟市北区 11 新潟市秋葉区 15 五泉市	8 新潟市東区 12 新潟市南区 16 阿賀野市	9 新潟市中央区 13 新潟市西区 17 阿賀町	10 新潟市江南区 14 新潟市西蒲区
県央圏域	18 三条市 22 田上町	19 燕市	20 弥彦村	21 加茂市
中越圏域	23 長岡市 27 刈羽村	24 出雲崎町	25 見附市	26 柏崎市
魚沼圏域	28 小千谷市 32 湯沢町	29 十日町市 33 津南町	30 魚沼市	31 南魚沼市
上越圏域	34 上越市	35 糸魚川市	36 妙高市	
佐渡圏域	37 佐渡市			

1-3 以下の加算の中で、届出しているもの全て○で囲んで下さい。

1 緊急時訪問看護加算 (介護保険)	2 24時間対応体制加算 (医療保険)	
3 機能強化型 1	4 機能強化型 2	5 機能強化型 3

1-4 職員の常勤換算数(小数点第二位以下切り捨て) をご記入下さい。

看護職 人 リハビリ職 人 事務職 人

その他 () 人 その他 () 人

問2. 訪問看護を行っている患者の実人数、訪問延べ件数を数字でご記入下さい。

ひと月あたり平均人数、件数 (2019.4.1~2020.3.31の1年間における)

介護保険	実人数	約 <input type="text"/> 人	延べ件数	約 <input type="text"/> 件
医療保険	実人数	約 <input type="text"/> 人	延べ件数	約 <input type="text"/> 件

問9. 訪問看護利用者の急変時に入院が必要な場合、スムーズに入院できていると思いますか。

- 1 大半の事例でできていると思う 2 半数程度はできていると思う 3 あまりできていないと思う 4 全くできていないと思う

問10. 2019.4.1～2020.3.31の1年間に、自宅等※1で看取り※2を行った概ねの人数をご記入下さい。

※1 自宅等；患者宅のほか、サービス付高齢者向け住宅・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護等の介護保険施設において、医療保険の訪問看護療養費を算定できる利用者を含むものとする。
※2 ここでいう看取りとは；本人家族・関係者間で事前に終末期対応について相談していた利用者が、自宅等及び病院入院後24時間以内に死亡した場合を対象とする。ターミナルケア加算等算定の有無は問わない。

約 人

問11. 2019.4.1～2020.3.31の1年間に、自宅等での看取りを行った場所の割合をご記入下さい。

患者の自宅	約 <input type="text"/> %	サービス付高齢者向け住宅	約 <input type="text"/> %
認知症対応型共同生活介護	約 <input type="text"/> %	小規模多機能型居宅介護	約 <input type="text"/> %
その他1 (<input type="text"/>)	約 <input type="text"/> %	その他2 (<input type="text"/>)	約 <input type="text"/> %

問12. 自宅等での看取り患者の受入れについて、今後の意向を一つ選択して下さい。

- 1 受入人数を増やす又は新たに受入を始めたい 2 現状維持は可能 3 今後は件数を減らしたいと思う 4 看取り対応は行っておらず、今後も予定はない

問13. あなたの地域のICT連携システム※を利用していますか。

※ICT連携システム；在宅医療には、診療所・訪問看護・訪問介護・後方支援病院等の在宅医療を提供する多職種の連携が必要であることから、コンピュータ等の情報伝達技術を活用して情報共有等を行うために構築されたシステムのこと。

- 1 利用している 2 地域にシステムはあるが利用していない 3 地域にシステムがない 4 ICT連携システムについて知らない

●今後の意向は (継続したい ・ やめたい)
●利用システムの名称 ()

●今後の意向は (利用したい ・ 利用しない ・ どちらとも言えない)

問14. 在宅医療と介護の連携において、ICT連携システムは有効だと思いますか。

- 1 とても有効 2 有効 3 あまり有効でない 4 有効でない 5 わからない

問15. ICT連携システム以外に、地域で連携に活用しているツール (例 新潟市;むすびあい手帳等) がありますか。

1 ある → 名称 2 ない

問16. 地域のICT連携システムのより効果的な活用のために、必要と思われることがあればご記入下さい。

問17. 地域の在宅医療に関する課題は何とご思いますか。当てはまるものを3つまで選択して下さい。

- 1 在宅医療に関わる医師、歯科医師、薬局、訪問看護師、ケアマネジャー、介護職等専門職の人員不足
- 2 在宅医療に関わる診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、介護事業所等の基盤整備
- 3 地域の目指す姿、目標、課題等の協議の不足
- 4 療養手帳やICTを活用した事業者間の情報共有
- 5 在宅医療・介護連携に関する相談支援体制の整備
- 6 病院関係者の意識や知識・技術向上
- 7 診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護等在宅医療提供者の意識や知識・技術向上
- 8 介護職の意識や知識・技術向上
- 9 地域住民への在宅医療に関する普及啓発
- 10 医療圏を意識した市町村間の広域連携
- 11 その他 ()

問18. 在宅医療全般に関して、ご意見等がございましたらご記入下さい。

事業所調査票の質問は以上です。ありがとうございました。

(回答に際してのお願い) この調査は統計的に処理し、薬局が特定できる状態で公表は致しません。

- ◆ 薬剤師の方からの回答をお願いします。
- ◆ 居宅療養管理指導等とは、在宅患者訪問薬剤管理指導を含むものとしてご回答下さい。
- ◆ 特に断りのない場合、本年10月1日現在の状況についてお答え下さい。
- ◆ 該当する番号を○で囲む、数字を記入する等、各問の案内に沿ってご記入下さい。
その他を選択した場合は内容をご記入下さい。

問 1. 貴局の基本情報について、伺います。

1-1 薬局名

1-2 所在地について、当てはまる市町村の番号を○で囲んで下さい。

下越圏域	1 新発田市	2 村上市	3 関川村	4 粟島浦村
	5 胎内市	6 聖籠町		
新潟圏域	7 新潟市北区	8 新潟市東区	9 新潟市中央区	10 新潟市江南区
	11 新潟市秋葉区	12 新潟市南区	13 新潟市西区	14 新潟市西蒲区
	15 五泉市	16 阿賀野市	17 阿賀町	
県央圏域	18 三条市	19 燕市	20 弥彦村	21 加茂市
	22 田上町			
中越圏域	23 長岡市	24 出雲崎町	25 見附市	26 柏崎市
	27 刈羽村			
魚沼圏域	28 小千谷市	29 十日町市	30 魚沼市	31 南魚沼市
	32 湯沢町	33 津南町		
上越圏域	34 上越市	35 糸魚川市	36 妙高市	
佐渡圏域	37 佐渡市			

1-3 届出をしているものがあれば、すべて○で囲んで下さい。

1 居宅療養管理指導 2 在宅患者訪問薬剤管理指導

問 2. 現在、居宅療養管理指導等を行っていますか。当てはまるものを一つ選択して下さい。

1 行っている 2 現在は行っていない

問 3. 今後（5年後）、居宅療養管理指導等を行っていると思いますか。当てはまるものを一つ選択して下さい。

1 行っていると思う 2 行っていないと思う 3 わからない

問4. 今後新たに居宅療養管理指導等を行う、または提供件数を増やすには何が必要と思いますか。
必要性が高いと思われるものを3つまで選択して下さい。

- | | | |
|--------------------------|-------------------|------------------|
| 1 自局の薬剤師増員 | 2 自局の薬剤師以外のスタッフ増員 | 3 ほかの薬局との連携 |
| 4 病院薬剤師・薬局薬剤師間の連携 | | 5 在宅医療を行う診療所との連携 |
| 6 訪問看護ステーションとの連携 | 7 病院との連携 | 8 ケアマネジャーとの連携 |
| 9 患者家族への周知・需要とニーズ発掘 | | |
| 10 診療報酬/介護報酬の引上げ・加算要件緩和等 | | |
| 11 その他 () | | |

問5～13の質問は、居宅療養管理指導等を行っている薬局のみお答え下さい。

それ以外の薬局は、4ページ問14から回答をお願いします。

問5. 居宅療養管理指導等を担当している職員の人数をご記入下さい。

職員数 人

問6. 居宅療養管理指導等を行っている患者の実人数、訪問延べ件数を数字でご記入下さい。

ひと月あたり平均人数、件数（2019.4.1～2020.3.31の1年間における）

患者宅	実人数	約 <input type="text"/> 人	延べ件数	約 <input type="text"/> 件
-----	-----	--------------------------	------	--------------------------

患者宅以外※	実人数	約 <input type="text"/> 人	延べ件数	約 <input type="text"/> 件
--------	-----	--------------------------	------	--------------------------

※患者宅以外；サービス付高齢者向け住宅・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護など訪問診療料の算定が可能な施設（配置医としての特別養護老人ホームでの診察は含まない）。

問7. 今後、居宅療養管理指導等の患者をどのくらい増やすことが可能ですか。

1 ひと月あたり約 件 2 増やすことは困難

問8. これまでに病院が行う退院前カンファレンス、ケアマネジャーが行うサービス担当者会議への出席要請がありましたか。

1 要請があった

2 要請はなかった

これまでの出席頻度を一つ選択して下さい。

- ① 大半は出席している ② 半数程度は出席している ③ ほとんどしていない

要請があれば出席したいと思いますか。

- ① 条件が合えば出席したい ② 出席は困難

調整によって出席が可能となる条件がありますか。（複数選択可）

(日程 ・ 時間 ・ 検討内容 ・ その他 ())

問9. 退院前カンファレンスやサービス担当者会議の充実のために何が重要だと思いますか。3つまで選択して下さい。

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 参加職種の多様化（医師、歯科医師等） | 2 患者及び家族の参加 |
| 3 退院日まで余裕を持った開催時期の配慮 | 4 情報の事前準備 |
| 5 参加者のコミュニケーション力の向上 | 6 進行役のファシリテート力の向上 |
| 7 病院関係者が在宅生活や介護サービスの理解を深める | 8 在宅サービス関係者が病院医療に関する理解を深める |
| 9 急な招集への柔軟な対応 | 10 参加しやすい仕組み整備（オンラインミーティングなど） |
| 11 その他（ | ） |

問10. 退院する患者が円滑に在宅医療に移行できていると思いますか。

- | | | | |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|
| 1 大半の事例でできていると思う | 2 半数程度はできていると思う | 3 あまりできていないと思う | 4 全くできていないと思う |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|

問11. 居宅療養管理指導等を受けている患者に対し、常時連絡がとれる体制をとっていますか。
（報酬上の加算算定有無は問いません。）

- | | | | |
|------------------------|-------------------|---------|-----------|
| 1 基本的に常時対応している（訪問・電話等） | 2 診療時間内であれば対応している | 3 条件による | 4 対応していない |
|------------------------|-------------------|---------|-----------|
- | | | | |
|---|---|--|------------------|
| <table border="1"><tr><td>時間外でファーストコール対応している職員は誰ですか
薬剤師 ・ 事務
その他（</td></tr></table> | 時間外でファーストコール対応している職員は誰ですか
薬剤師 ・ 事務
その他（ | <table border="1"><tr><td>対応の条件があれば記入して下さい</td></tr></table> | 対応の条件があれば記入して下さい |
| 時間外でファーストコール対応している職員は誰ですか
薬剤師 ・ 事務
その他（ | | | |
| 対応の条件があれば記入して下さい | | | |

問12. 居宅療養管理指導等を行っている患者に対し、急変時の対応方法をケアチーム間で共有できていますか。

- | | | | |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|
| 1 大半の事例でできていると思う | 2 半数程度はできていると思う | 3 あまりできていないと思う | 4 全くできていないと思う |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|

問13. 居宅療養管理指導等を行っている患者の急変時に入院が必要な場合、スムーズに入院できていると思いますか。

- | | | | |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|
| 1 大半の事例でできていると思う | 2 半数程度はできていると思う | 3 あまりできていないと思う | 4 全くできていないと思う |
|------------------|-----------------|----------------|---------------|

問14. あなたの地域のICT連携システム※を利用していますか。

※ICT連携システム；在宅医療には、診療所・訪問看護・訪問介護・後方支援病院等の在宅医療を提供する多職種の連携が必要であることから、コンピュータ等の情報伝達技術を活用して情報共有等を行うために構築されたシステムのこと。

1 利用している

2 地域にシステムはあるが利用していない

3 地域にシステムがない

4 ICT連携システムについて知らない

●今後の意向は（継続したい・やめたい）
●利用システムの名称（ ）

●今後の意向は
（利用したい・利用しない・どちらとも言えない）

問15. 在宅医療と介護の連携において、ICT連携システムは有効だと思いますか。

1 とても有効

2 有効

3 あまり有効でない

4 有効でない

5 わからない

問16. ICT連携システム以外に、地域で連携等に活用しているツール（例、新潟市：むすびあい手帳等）がありますか。

1 ある →

名称

2 ない

問17. 地域のICT連携システムのより効果的な活用のために、必要と思われることがあればご記入下さい。

問18. 地域の日常療養支援に関する課題は何としますか。当てはまるものを3つまで選択して下さい。

- 1 在宅医療に関わる医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャー、介護職等専門職の人員不足
- 2 在宅医療に関わる診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、介護事業所等の基盤整備
- 3 地域の目指す姿、目標、課題等の協議の不足
- 4 療養手帳やICTを活用した事業者間の情報共有
- 5 在宅医療・介護連携に関する相談支援体制の整備
- 6 病院関係者の意識や知識・技術向上
- 7 診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護等在宅医療提供者の意識や知識・技術向上
- 8 介護職の意識や知識・技術向上
- 9 地域住民への在宅医療に関する普及啓発
- 10 医療圏を意識した市町村間の広域連携
- 11 その他（ ）

問19. 在宅医療全般に関して、ご意見等がございましたらご記入下さい。

薬局調査票の質問は以上です。ありがとうございました。

居宅介護支援事業所調査票

地域医療提供体制に関する実態・意識調査

(回答に際してのお願い) この調査は統計的に処理し、事業所が特定できる状態で公表は致しません。

- ◆管理者の方からの回答をお願いします。
- ◆特に断りのない場合、本年10月1日現在の状況についてお答え下さい。
- ◆該当する番号を○で囲む、数字を記入する等、各問の案内に沿ってご記入下さい。
その他を選択した場合は内容をご記入下さい。

問1. 貴事業所の基本情報について、伺います。

1-1 事業所名 _____

1-2 所在地について、当てはまる市町村の番号を○で囲んで下さい。

下越圏域	1 新発田市	2 村上市	3 関川村	4 粟島浦村
	5 胎内市	6 聖籠町		
新潟圏域	7 新潟市北区	8 新潟市東区	9 新潟市中央区	10 新潟市江南区
	11 新潟市秋葉区	12 新潟市南区	13 新潟市西区	14 新潟市西蒲区
	15 五泉市	16 阿賀野市	17 阿賀町	
県央圏域	18 三条市	19 燕市	20 弥彦村	21 加茂市
	22 田上町			
中越圏域	23 長岡市	24 出雲崎町	25 見附市	26 柏崎市
	27 刈羽村			
魚沼圏域	28 小千谷市	29 十日町市	30 魚沼市	31 南魚沼市
	32 湯沢町	33 津南町		
上越圏域	34 上越市	35 糸魚川市	36 妙高市	
佐渡圏域	37 佐渡市			

1-3 特定事業所加算について、当てはまるものを一つ選択して下さい。

1 (Ⅰ) を算定している	2 (Ⅱ) を算定している	3 (Ⅲ) を算定している	4 (Ⅳ) を算定している	5 いずれも算定していない
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

1-4 主任介護支援専門員と介護支援専門員の人数をご記入下さい。

主任介護支援専門員 人 介護支援専門員 人

1-5 給付管理数とその要介護度別人数内訳を数字で記入して下さい。訪問診療・訪問看護・歯科訪問診療・薬局訪問を受けている利用者数の内訳もご記入下さい。※本年10月の給付実績でお答え下さい。

給付管理数 人

要介護度別人数		要介護度別サービス利用者数 (実人数)			
要介護度	人数	訪問診療	訪問看護	歯科訪問診療	薬局訪問
要支援1	人	人	人	人	人
要支援2	人	人	人	人	人
要介護1	人	人	人	人	人
要介護2	人	人	人	人	人
要介護3	人	人	人	人	人
要介護4	人	人	人	人	人
要介護5	人	人	人	人	人

問2. 在宅医療（訪問診療・歯科訪問診療・訪問薬剤管理指導・訪問看護等）を必要と考える利用者に提供できていると思いますか。

1 概ね提供できている

2 提供できていないことが多い

3 どちらとも言えない

提供できていないと思う方にお聞きます。理由はどのようなことだと思いますか。（複数選択可）

1 本人家族の合意を得ることが難しい

2 訪問診療・訪問看護・歯科訪問診療・訪問薬剤管理指導等、在宅医療の資源量不足

3 主治医との意見の相違

4 ケアチーム内の意見の相違

5 ケアマネの資質

6 その他（

）

問3. 利用者が入院した場合の病院関係者とのやりとりの実際について、伺います。

3-1 退院後の生活を検討するために、必要な情報を得ることができていますか。

1 大半の事例でできていると思う

2 半数程度はできていると思う

3 あまりできていないと思う

4 全くできていないと思う

3-2 退院前カンファレンス（サービス担当者会議）は、必要時に開催できていますか。

1 大半の事例でできていると思う

2 半数程度はできていると思う

3 あまりできていないと思う

4 全くできていないと思う

3-3 上記3-1、3-2において、できない理由は何だと思いますか。

問4. 円滑な在宅医療への移行のために望ましい入退院支援の開始時期はどのくらいだと思いますか。

1 入院前

2 入院後7日以内

3 入院後14日以内

4 退院7日前

5 退院2～3日前

6 その他（

7 わからない

問5. 退院前カンファレンスやサービス担当者会議の充実のために何が必要だと思いますか。3つまで選択して下さい。

1 参加職種の多様化（医師、歯科医師等）

2 患者及び家族の参加

3 退院日まで余裕を持った開催時期の配慮

4 情報の事前準備

5 参加者のコミュニケーション力の向上

6 進行役のファシリテート力の向上

7 病院関係者が在宅生活や介護サービスの理解を深める

8 在宅サービス関係者が病院医療に関する理解を深める

9 事例によっては急な招集でも対応してくれる事業者の配慮

10 参加しやすい仕組み整備（オンラインミーティングなど）

11 その他（

）

問6. 在宅医療を受けている利用者に対し、常時連絡がとれる体制（事業所の当番制含む）をとっていますか。
（報酬上の加算算定有無は問いません。）

1 基本的に常時対応している（訪問・電話等）

2 条件による

3 時間外は対応していない

対応の条件があれば記入して下さい

問7. 急変時の対応方法をケアチーム間で共有できていますか。

1 大半の事例でできていると思う

2 半数程度はできていると思う

3 あまりできていないと思う

4 全くできていないと思う

問8. 急変時に入院が必要な場合、スムーズに入院できていると思いますか。

1 大半の事例でできていると思う

2 半数程度はできていると思う

3 あまりできていないと思う

4 全くできていないと思う

問9. 2019.4.1～2020.3.31の1年間に、担当した看取り※事例の概ねの人数を選択して下さい。

※ここでいう看取りとは、本人家族・関係者間で事前に終末期対応について相談し対応準備をしていた場合のことを指し、急死等で検死対応例は対象としない。利用者が自宅等及び病院入院後24時間以内に死亡した場合を対象とする。加算等算定の有無は問わない。

約 人

問10. 看取り事例について、今後の意向を一つ選択して下さい。

1 積極的に関わっていきたいと思う

2 関わる件数を減らしたいと思う

3 看取り事例には関わっておらず、今後も考えていない

4 どちらとも言えない

その理由をご記入下さい

問11. あなたの地域のICT連携システム※を利用していますか。

※ICT連携システム；在宅医療には、診療所・訪問看護・訪問介護・後方支援病院等の在宅医療を提供する多職種の連携が必要であることから、コンピュータ等の情報伝達技術を活用して情報共有等を行うために構築されたシステムのこと。

1 利用している

2 地域にシステムはあるが利用していない

3 地域にシステムがない

4 ICT連携システムについて知らない

●今後の意向は（継続したい・やめたい）
●利用システムの名称（ ）

●今後の意向は
（利用したい・利用しない・どちらとも言えない）

問12. 在宅医療と介護の連携において、地域のICT連携システムは有効だと思いますか。

1 とても有効

2 有効

3 あまり有効で
ない

4 有効でない

5 わからない

問13. ICT連携システム以外に、地域で連携等に活用しているツール（例、新潟市:むすびあい手帳等）がありますか。

1 ある →

名称

2 ない

問14. 地域のICT連携システムのより効果的な活用のために、必要と思われることがあればご記入下さい。

問15. 地域の在宅医療に関する課題は何とご思いますか。当てはまるものを3つまで選択して下さい。

1 在宅医療に関わる医師、歯科医師、薬局、訪問看護師、ケアマネジャー、介護職等専門職の人員不足

2 在宅医療に関わる診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、介護事業所等の基盤整備

3 地域の目指す姿、目標、課題等の協議の不足

4 療養手帳やICTを活用した事業者間の情報共有

5 在宅医療・介護連携に関する相談支援体制の整備

6 病院関係者の意識や知識・技術向上

7 診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護等在宅医療提供者の意識や知識・技術向上

8 介護職の意識や知識・技術向上

9 地域住民への在宅医療に関する普及啓発

10 医療圏を意識した市町村間の広域連携

11 その他（

）

問16. 在宅医療全般に関して、ご意見等がございましたらご記入下さい。

事業所調査票の質問は以上です。ありがとうございました。

(回答に際してのお願い) この調査は統計的に処理し、機関・個人が特定できる状態で公表は致しません。

- ◆特に断りのない場合、本年10月1日現在の状況についてお答え下さい。
- ◆該当する番号を○で囲む、数字を記入する等、各問の案内に沿ってご記入下さい。
- その他を選択した場合は内容をご記入下さい。

問1. あなたの現在の職種を一つ選択して下さい。

- 1 病院医師 2 病棟看護師 3 連携部門担当者 (看護師 ・ ソーシャルワーカー ・ 事務)
4 診療所医師 5 歯科医師 6 薬局薬剤師 7 訪問看護師 8 介護支援専門員

問2. あなたの現在の勤務部門・事業所での勤続年数を一つ選択して下さい。

1. 1年未満 2. 1～5年未満 3. 5～10年未満 4. 10年以上

問3. あなたは他の医療機関や介護事業所との間で、患者情報をどの程度やり取りしていますか。

太枠の中に、それぞれ◎、○、△、×のいずれかを記入して下さい。

◎;週に数回 ○;月に数回 △;適宜 ×;なし

病院	診療所	歯科診療所	薬局
訪問看護ステーション	居宅介護支援事業所 (ケアマネジャー)	地域包括支援センター	訪問介護事業所 (ヘルパー)
介護事業所 (デイサービス、 ショートステイ、特養等)			

問4. あなたは他の医療機関や介護事業所との協力・連携について、どの程度できていると思いますか。

太枠の中に、それぞれ◎、○、△、×のいずれかを記入して下さい。

◎;必要な協力・連携ができている ○;ある程度できているがやや課題がある
△;あまりしていないが今後はしたい ×;あまりしておらず、その必要性も高くない

病院	診療所	歯科診療所	薬局
訪問看護ステーション	居宅介護支援事業所 (ケアマネジャー)	地域包括支援センター	訪問介護事業所 (ヘルパー)
介護事業所 (デイサービス、 ショートステイ、特養等)			

問 5. 患者や家族に対して、あるいはケアチーム間で、ACP※（アドバンスケアプランニング）を意識した関わりを持っていますか。当てはまるものを一つ選択して下さい。

※ACP；今後の治療・療養について患者・家族等と医療・介護関係者があらかじめ話し合う自発的なプロセスのこと。患者の同意のもと、話し合いの結果が記述され、定期的に見直され、ケアに関わる人々間で共有されることが望ましい。そして、ACPの話し合いには次の内容が含まれる。・患者本人の気がかりや意向 ・患者の価値観や目標 ・病状や予後の理解 ・医療や療養に関する意向や選好、その提供体制等

1.ACPを意識した関わり
を持っている

2. ACPを意識した関わり
を持っていない

3.ACPを知らない

ACPを意識した関わりを持っている方にお聞きます

①必要な情報はケアチーム内で共有できていると思いますか。一つ選択して下さい。

1 大半の事例で
できていると思う

2 半数程度はでき
ていると思う

3 あまりできていない
と思う

4 全くできていないと
思う

②ケアチーム間で共有している場合の方法を選んで下さい。（複数選択可）

1 退院前カンファレンス・サービス担当者会議等

2 介護サービス計画書（ケアプラン）

3 主治医意見書

4 地域で導入しているツール（むすびあい手帳、療養手帳、ICT、緊急時情報シート等）

5 その他（

）

問 6. 人生の最終段階における本人の意向を尊重した医療の充実に何が必要と思いますか。
当てはまるものを2つまで選択して下さい。

1 医療・介護従事者への教育・研修

2 本人・家族等への相談体制の充実

3 疾病の有無に関わらず、人生の最終段階における医療について考えるための情報提供

4 人生の最終段階について話し合った内容の共有

5 その他（

）

問 7. 新潟県内の郡市医師会では、在宅医療推進センター等の名称で在宅医療の推進に向けた事業を実施しています。以下の質問にお答え下さい。

7-1 地域で在宅医療推進センターが行う講演会や研修会等に参加したことがありますか。

1 参加したことがある

2 参加したことがない

3 センターがあることを知らなかった

7-2 郡市医師会在宅医療推進センターに特に力を入れて取り組んでほしいことがありますか。（複数選択可）

1 地域の在宅医療提供
体制構築に向けた取組

2 住民に向けた在宅医
療普及啓発

3 専門職に向けた在宅
医療普及啓発

4 在宅医療の人材育成

5 その他（

）

		そう 思う	少し そう 思う	どちら でも ない	あまりそう 思わ ない	そう 思わ ない
VI 地域のリ ソース（資 源）	⑯ 患者（利用者）が利用できる地域の介護サービスがわかる					
	⑰ 患者（利用者）が利用できる地域の医療資源やサービスがわかる					
	⑱ 利用できる地域の医療資源やサービスについて具体的に患者（利用者）や家族に説明できる					
VII 病院と地域 の連携	⑲ 退院や入院のときに、相手がどんな情報を必要としているかを考えて申し送りをしたり、情報提供を行ったりしている					
	⑳ 在宅（施設）に移行する患者（利用者）については、退院時にカンファレンスや情報共有をしっかりと行っている					
	㉑ 退院する患者（利用者）について、急に容体が変わったときの対応や連絡先を決めている					

出典：福井小紀子（大阪大学） 在宅医療介護従事者における顔の見える関係評価尺度の適切性の検討．日本在宅医学会誌．16（1）．5-11.2014.

問10. あなたは、自身の仕事に満足感を感じていますか。一つ選択して下さい。

1 感じている

2 やや感じている

3 あまり感じていない

4 感じていない

質問は以上です。ありがとうございました。